

いしかわ まちづくりView

No.35

目次

- 特集1 「第1回北信越町並みゼミ大聖寺大会」開催！（加賀市）
北陸の古都大集合～あつたらひとときを大聖寺で ……1
- あのみち、このまち“まちづくりめぐり”
都心の新たな賑わい創出（金沢市）
～金沢城公園「河北門」「いもり堀」・しいのき迎賓館の完成 ……4
宇出津が賑わっています。（能登町） ……5
まちづくり交付金事業「白峰地区」の竣工（白山市） ……6
- まちづくりの動き
（都）府中七尾駅線の愛称「御祓川^{みそぎがわ}大通り」に決定！（七尾市） ……7
- センターだより ……8



特集 「第1回北信越町並みゼミ大聖寺大会」開催！

北陸の古都大集合～あつたらひとときを大聖寺で

1. はじめに

石川県加賀市は、かつて加賀百万石の支藩で、大聖寺十萬石の城下町として栄えました。海や丘陵、河川等の自然とともに城下町、港町、宿場町などが存在し、“日本の縮図”と言われています。

大聖寺地区は、大聖寺藩の城下町・寺内町として栄え、当時の城下町の町割りや町名が現代まで継承されており、江戸末期から明治期と思われる町屋が残っており、城下町ならではの風情が今も生き続けています。

「第1回北信越町並みゼミ大聖寺大会」は、全国町並み保存連盟に加盟するNPO法人歴町センター大聖寺などが主催したもので、北陸・甲信越ブロックにて開催する最初の大会として去る平成22年5月1日・

2日の2日にわたり開催されました。本大会のテーマを「北陸の古都大集合～あつたらひとときを大聖寺で」と掲げています。“あつたらもん”とは加賀地方の方言で“捨てられない尊いもの”を意味します。

“あつたらもん”が残る大聖寺を舞台にして、全国の歴史的な町並みの保存や歴史的資産を活かしたまちづくりに取り組む全国の関係者が一堂に会して、今後の連携に向けた情報交換を行い、また大聖寺地区の町並み見学や、北信越地域の歴史的な町での取り組み状況の報告を通して、町並み景観の保全について考えることを目的に開催されました。



■大聖寺ぐるーっと見学会



■大聖寺に残る町屋の保存

2. 大会の概要

(1) 大聖寺ぐるーっと見学会

大会初日は大聖寺に残る歴史的町並みや文化財などを地元ボランティアガイドの説明を聞きながら散策する「大聖寺ぐるーっと見学会」で幕を開けました。大聖寺生れの作家・深田久弥氏の記念館「山の文化館」等の指定文化財を見学するコースや、山の下寺院群の周辺地区において、地域の住民が主体になって景観整備に取り組んでいる地区を見学するコース、また加賀市の町屋再生事業にて支援を受けている町屋を見学するコースなど5コースあり、参加者は好きなコースを選んで散策しました。

また、共催事業として「加賀白山おったから祭り」

と「大聖寺時代結婚式」があわせて行われました。

加賀白山おったから祭りの会場となった江沼神社では、太鼓の演奏などの加賀地域の伝統芸能が行われ、あわせて会場内は、地元の協力団体のブースや、加賀の名産をセレクトした物産市でにぎわいました。大聖寺時代結婚式は、大聖寺の昔ながらの婚礼を再現したもので、天候にも恵まれ大勢の方々が訪れていました。



■大聖寺時代結婚式の様子



(2) 各地からの報告

第二日目となる5月2日は、江沼神社の竹涇館^{ちつげいかん}を会場に北陸の歴史的な町での取り組み報告と、町並み景観に関する講演会が開催されました。

各地からの報告では、大聖寺での町屋再生事業の説明を皮切りに、金沢市の町屋保存の取り組み、新潟県村上市の川の再生に向けた地域団体の取り組み、長野県妻籠宿からは近況のイベントや案内ガイド等の活動の報告が行われました。また、大会に急きょ駆け付けた沖縄県竹富島からはリゾート開発を巡る島内の状況について報告が行われました。

引き続き、北陸3県で町並み保存に取り組んでいる全20地区について、金沢大学の学生及び石川工業高等専門学校^{いしかわこうがく}の学生による辛口調査報告があり、感想を交えた内容に参加者は聞き入りました。

(3) 講演

午後からは、町並み景観の保全をテーマにして3名の講師による講演が行われました。

東京大学教授の西村幸夫氏は「北陸の町並み景観と取り組みの現状」と題し、現代の町の姿は昔の人の知恵や空間のもつ遺伝子により形成されている、と事例を踏まえて講演されました。北陸の都市はゆっくりとした歴史的変遷を受け入れ成熟した魅力的な町並みが残っているとのことでした。



東京大学教授 西村幸夫氏

前文化庁文化財部鑑査官の刈谷勇雅氏は、「町並み景観と文化財保存活用の現状」と題し、国宝や重要文化財、登録有形文化財、記念館などのいまある文化施設を景観に有効に活用している事例を紹介しながら講演されました。



元文化庁文化財部鑑査官 刈谷勇雅氏

フランス文化評論家の永瀧達治氏は、「景観を大切に
する心 in パリ」と題し、フランス人の老舗哲学に基づき
景観の考え方やそれを反映した建物などの紹介、
そして日本では継続性のある変化が失われつつあり、
大切にしなければならないと講演されました。



■フランス文化評論家 永瀧達治氏

最後に、大会に駆け付けた粟津温泉の芝居小屋の再生
に取り組む賀古唯義氏から同芝居小屋の現状について
状況報告がありました。石川県は粟津温泉のほか、
七尾市にも芝居小屋が残っており、2つの芝居小屋が
ある珍しい県であるとともに、貴重な歴史資源の保存
が重要であると説明されました。



(右) 参加者多数で
会場一杯！

4. おわりに

大会は、全国各地から町並みの保存や整備に携わる
150人以上が参加し、見学者、観光客も合わせ両日
で延べ1200以上が大聖寺に集まりました。

石川県内では、地域の歴史や文化を活かしたまちづ
くり活動が各地で行われています。大聖寺にて行われ
た大会をひとつのきっかけに、それぞれの地域がお互
いに交流し情報発信し合い、さらに地域の魅力が向上
していくことと期待されます。

(いしかわまちづくり技術センター)

都心の新たな賑わい創出 ～金沢城公園「河北門」「いもり堀」・しいのき迎賓館の完成～

1. はじめに

金沢城公園は平成8年に金沢大学移転跡地を国より取得し、我が国を代表する近世城郭の歴史的文化的遺産の保全を図りながら、兼六園と並ぶ本県のシンボル公園として整備を進めています。

現在、北陸新幹線の金沢開業を見据え、平成18年度より第二期整備を進めており、短期事業である、金沢城三御門の一つ「河北門」と外堀の「いもり堀」が本年4月に完成しました。

加えて、金沢城と兼六園の前庭ともいえる旧県庁跡地では「しいのき迎賓館」も完成し、県都金沢の都心部は一段と輝きを増しています。

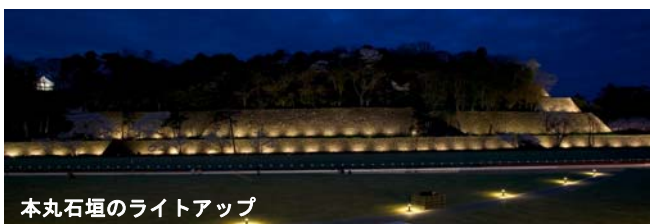


2. しいのき迎賓館

旧石川県庁舎は、大正13年に竣工した県内で最も古い鉄筋コンクリートの建築物の一つですが、周辺の歴史的文化的景観と一体となるよう、歴史的な外観を残しながら、時代にあった利活用を図り、新たな文化を育み、賑わい創出に貢献するものとして保存再生しました。



園路沿いにはせせらぎが設けられ、良好な親水空間を形成しており、しいのき迎賓館からは金沢城の本丸石垣やいもり堀の景観が楽しめます。



3. いもり堀

金沢城の南西側を囲む外堀で、戦後はテニスコートとして利用されました。平成15年度からの本格的な埋蔵文化財調査により、かつてのいもり堀全体の形状を明らかにした上で、江戸期の遺構を保存しながら、文献、古絵図等を参考に整備を進めました。

いもり堀の南東端で復元された鯉喉櫓台石垣は加賀藩の石垣技術者である後藤彦三郎が「城内随一の石垣」と称賛した石垣です。



4. 河北門

金沢城の三御門のひとつで、実質的な正門です。平成18年度より絵図文献・古写真の資料調査とともに発掘調査を行い、往時の建物の姿、規模、構造を解明した上で、現行の建築基準法による耐震性、防火性などの安全性とバリアフリーに配慮しました。

整備にあたっては河北門に使用する平瓦と壁板に記念のメッセージを残す寄進事業や工事見学会の開催など、「県民参加による城づくり」を推進しました。



5. おわりに

今年度からは、第二期整備の中期事業に取り組んでいます。「石川門」の保存修理と「橋爪門」の二の門・枳形の復元による三御門の完成、また、旧県体育館跡地の「玉泉院丸跡」については、調査計画を進め、「城の中の庭」を平成の時代に新たに復元することとしています。金沢城の歴史文化遺産としての価値を一層高め、金沢都心部の賑わい創出に貢献したいと考えています。

【お問い合わせ】

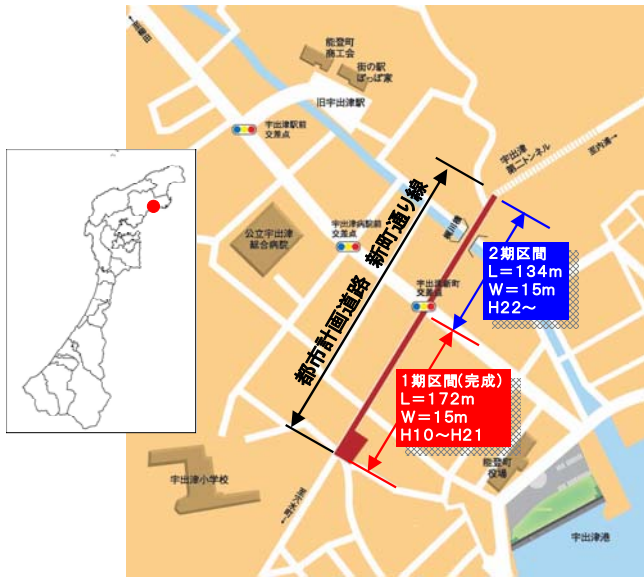
石川県土木部公園緑地課 TEL:076-225-1772

E-mail:e251800a@pref.ishikawa.lg.jp

宇出津が賑わっています。～新町通り線1期区間完成！～

■ はじめに

都市計画道路「新町通り線」の街なか再生・目抜き通り整備事業は、能登町宇出津地区の中心市街地の空洞化に歯止めをかけ、沿道商店街の賑わい創出を図ることを目的に、平成10年より事業に着手し、沿道の統一感溢れる建物修景と合わせ、無電柱化やゆとりある歩行空間の確保など、親しみのある街なみ整備を進めてきました。



■ 地元の創意工夫によるまちづくり

地元では、「能都・街なか再生・まちづくり協議会」を立ち上げ、街なみのそろった建物づくりを行うとともに、地元小学生による歩道のレリーフ製作や商店街のおかみさんによる街路灯に飾る石板の作製など、暖かみのあるもてなしの空間の形成に取り組まれました。

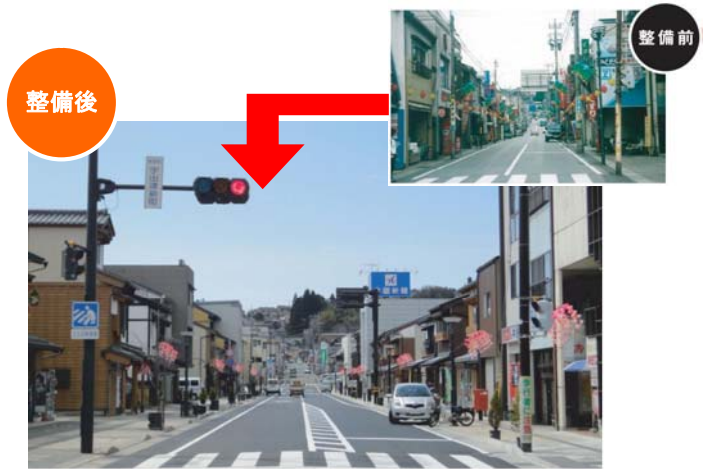
快適な道路空間は、毎月15日の「まんなか市」や9月の「歩行者天国」、冬の「寒ぶりまつり」など様々なイベントの舞台となり、活気溢れるまちづくりのために利用されています。



小学生による
レリーフ製作



商店街の歩行者天国イベント



■ 1期区間が完成

平成22年6月6日、新町通り線1期区間と宇出津港緑地広場において、谷本知事をはじめ、来賓、町民らが盛大に事業の完成を祝いました。当日は、保育園児によるキリコ祭りや、和太鼓の披露、沿道商店街によるふるまいバイキングの開催などが行われ、大いに賑わいました。



■ おわりに

平成22年度からは、残る2期区間の事業に着手しており、今後とも地元と一体となって事業を推進してまいります。

【問い合わせ先】 石川県土木部都市計画課

TEL : 076-225-1758

Eメール : gairo@pref.ishikawa.lg.jp

まちづくり交付金事業「白峰地区」の竣工

1 白峰地区の中心市街地再整備

白山市白峰地区（旧白峰村）は、標高500mの山岳地帯に位置し、国内有数の豪雪地帯として知られています。

近年、白峰地区の産業である観光業の衰退や観光客の減少、また過疎化が顕著となり、地域を再生させる必要性が生じてきました。

このため、平成19年度から平成21年度にかけ、まちづくり交付金を活用した再整備事業を進め、白峰温泉総湯・地域交流センター（平成20年11月オープン）をはじめ、特産品販売施設、まちなか公園（高山植物園）などの整備を一体的に進めてきました。

特に、総湯・地域交流センターは、整備前に比べ利用者数が約2倍となるなど、まちづくりの拠点として、地区全体の賑わいに大きく貢献しています。

本年5月23日には、事業完成の区切りとして、竣工式を行ったところです。

■ 白峰地区まちづくり交付金事業概要

事業期間	平成19年8月～平成22年5月
事業内容	・総湯、地域交流センター・特産品販売施設・まちなか公園・道路・せせらぎ・駐車場・誘導、案内サイン等
総事業費	9億6,646万円（ソフト事業含む）



— 総湯・地域交流センター —

2 まちづくりの取り組み

当地区では、村おこしを実践するため、平成2年に、地域住民からなる住民組織「雪だるま倶楽部」を立ち上げ、地域の資源である雪を活用した「雪だるままつり」の開催を毎年行っており、今では、石川の冬を代表するイベントに成長しています。

さらには、当地区に古くから残る古民家を再利用した「雪だるまカフェ」を開設するなど、地域住民が中心となり、伝統文化を基調としたまちづくりを進め、山村集落におけるにぎわいの再生を実現しています。

平成20年7月には、これまでのまちづくりの功績が認められ、「まち交大賞」の創意工夫大賞を受賞しました。



▲雪だるままつり



▲古民家を再生した「雪だるまカフェ」

来年度には、伝統的街並みの継承と魅力ある街並みの保存を目的として、国の「重要伝統的建造物群保存地区」の指定に向けた申請を予定しており、官民が一体となって鋭意作業を進めているところです。

このような、行政と地域住民とが一体となってまちづくりに取り組んでいる白峰地区に、一度、皆さんも足を運んでみてはいかがでしょうか。



▲天領取次元 山岸家



— 情緒ある街並みが保存されている白峰地区 —

【問合せ先】石川県土木部都市計画課区画整理G

TEL : 076-225-1799

E-mail : gairo@pref.ishikawa.lg.jp

まちづくりの動き



(都)府中七尾駅線の愛称「御祓川大通り」に決定！ ～ 愛称募集事業の紹介～



1. はじめに

都市計画道路 府中七尾駅線は、七尾港と七尾駅を結ぶ道路で、平成6年度より、都市ルネッサンス石川・都心軸整備事業として無電柱化、道路拡幅及び、まちなみ景観整備を行っており、平成22年度の完成に向け事業を進めています。このたび、公募により道路の愛称を「御祓川大通り」に決定しましたのでご紹介します。

2. 愛称の募集

愛称の募集は、単に愛称を決定するだけではなく、愛称を募集する過程でより多くの市民がまちづくりに参加することを期待してすすめてきました。

(1) 市民主体の運営組織

募集は市民で構成される「ネーミング部会」が行い、道路への想いを込めた様々なアイデアが出ました。愛称募集の広報は、ホームページ、パンフレット、ポスター、地元コミュニティ紙への掲載、沿道プランターへのミニ看板設置等により行われ、平成21年12月から翌年2月までの募集期間に県内外から総数398通の応募がありました。



■道路への思い出や願いのインタビューに参加してくれた皆さん



■広報用のパンフレット(左)とプランターミニ看板

(2) 愛称の選考も市民で

愛称の選考は、沿道住民、地元のエッセイストや美容師、ラジオパーソナリティ、高校生等計11名の老若男女により構成される「ネーミング選考委員

会」が行いました。

選考委員会では、「昔から道とともにある‘御祓川’という名前を大切にしたい」「‘御祓’という言葉は、自分たちには平凡でも、七尾以外の人からは新鮮に感じる」等の意見が出され、「御祓川大通り」が選ばれました。



■ネーミング選考委員会の様子



3. 道標の設置 「コン丸くん」→

愛称が決定し、この道路がこれまで以上に市民に可愛がってもらえることを願って、愛称を記した道標を、起終点と中間地点に設置しました。

7月の港まつりの総踊り開始前には、市長や町会連合会長、まちづくり協議会長、七尾のゆるキャラ「コン丸くん」が道標の除幕式を行いました。

4. おわりに

現在、「御祓川大通り」では沿道住民による緑化活動がすすめられています。緑化を行う「御祓川大通りを花と緑で彩り隊」は、石川県が今年度よりすすめる石川県版アドプト制度を利用し、趣旨に賛同する企業から協賛をいただきながら活動を行っていきます。

今後、少しずつ活動が広がり、ゆくゆくは七尾港から七尾駅までが花と緑でいっぱいになることと思います。

皆様、七尾にお越しの際は、ぜひ御祓川大通りにお立ち寄りください。



(石川県 中能登土木総合事務所 道路建設課)

センターだより

『(財)いしかわまちづくり技術センター』は今年度もまちづくりに関する様々な事業を展開する予定です。ここでは、今年度予定している事業についてご案内します。

まちづくり情報の提供

○まちづくりライブラリー

- ・まちづくりや都市計画の専門図書 約 800 冊
- ・閲覧・貸出を行っております。図書一覧について今年度、当センターのホームページに掲載予定です。お気軽に当センターへお立ち寄りください。

○いしかわまちづくり View

県内のまちづくり情報紙を発行します。
(年 2 回、ホームページ掲載)

まちづくりの啓発・普及活動

○まちづくり専門家の派遣

- ・まちづくりの講習会などに講師を派遣します。
- ・講師の旅費・謝金の一部を助成します。

○いしかわこどもの未来創造まちづくり事業

- ・子供達がまちやまちづくりを学ぶための活動を支援します。今年度 7 件のまちづくり学習に活動費を助成します。
- ・子供達が学習した活動の報告会(まちづくりリーダー研修会)を開催します。

○まちづくりに関する研修の開催

- ・都市計画・まちづくりに関する研修会を開催します。
- 街並み・まちづくりシンポジウム
・今年度は特集記事でもご紹介した「第 1 回北信越町並みゼミ大聖寺大会」を共催しました。

まちづくり支援業務の受託

県や市等から公共事業に係るまちづくり協議会の運營業務を受託し、まちづくりに関する調査、計画等の立案を行っております。



▲ 専門家の派遣



▲ まちづくり研修会



▲ こどもの未来創造まちづくり事業



▲ まちづくりリーダー研修会



▲ まちづくりライブラリー



▲ まちづくり支援(視察研修)

編集後記

今号は「第 1 回北信越町並みゼミ大聖寺大会」について特集しました。歴史や景観は地域の貴重な財産です。今回の大会はこれらをまちづくりにどう活かしていくかを考える機会となりました。

当センターでは、専門図書の貸し出しや専門家の派遣など、まちづくりに関する支援事業を行っておりますので、お気軽にお問い合わせください。(岩端^{いわはな})

編集協力：石川県都市計画課・公園緑地課

発行：(財)いしかわまちづくり技術センター

TEL 076-232-2255 FAX 076-232-2532

HP <http://www.machisen.jp/>

発行日：平成 22 年 8 月